

# 八女市立福島中学校

## ○研究主題・副主題

「協働的に学びを進める生徒の育成」  
 ～考えを広げ、深める「対話活動」を位置づけた授業を通して～

## ○目指す生徒・教師の姿

### 生徒の姿

- ・課題に対して、興味・関心をもち、進んで課題に取り組もうとしている生徒(課題に対する意欲)
- ・自分なりの考えを出したり、共通点や相違点を基に対話したりする生徒(対話技能)
- ・課題に対してより確かな考えをつくる生徒(より確かな考え)

### 教師の姿

- ・教科等の枠を越えた校内の研修体制の一層の充実を図り、育成を目指す資質・能力を踏まえ、「何のために」「どのような改善をしようとしているのか」を教員間で共有しながら、学校組織全体としての指導力の向上を図ることができる教師集団

## ○研究成果の検証方法及び内容

- 〔目指す生徒の姿〕・福岡県版【授業評価アンケート】項目②「めあては課題を解決するために、何をどのように、どうするのかなどの見通しをもつことに役だった」、【授業チェックリスト】項目②「課題解決のための意欲を高めるための工夫がなされており、課題解決に向けて見通しが立てられている」
- ・福岡県版【授業評価アンケート】項目④「ペアや班などで、自分の考えを説明したり、自分の考えと友達のことを比較したりして、自分の考えをよりよいものにすることができた」、【授業チェックリスト】項目④「児童生徒が相互に関わり合い、考えを広げ深めるための工夫がなされている」
- ・福岡県版【授業評価アンケート】項目⑥「自分なりに振り返ることができた」、【授業チェックリスト】項目⑥「学びの変容を自覚するための工夫がなされている」
- 〔目指す教師の姿〕
- ・福岡県版【授業チェックリスト】項目⑩「教科間で基本的な学習過程が統一されている」
- ・本校学校評価項目「各教科等の授業において、研究構想に沿った授業を実践している」

## ○研究内容

### ア 授業づくり

- 【単元】自他の意見を比較し、多様な意見が生まれる課題や場面の設定
- 【導入】「まとめ(内容理解)」「振り返り(学びの変容)」を「めあて」につなぐ学習活動の充実
- 【展開】対話の3段階を意識した指導

### イ 組織づくり

- 授業研修における体制づくり
- ・小集団による研修方法
- ・小集団による研修運用

### ウ 学力向上の拠点としての近隣中学校との研修推進

- 校長会にて、本校の授業づくり、組織づくりの取組を説明
- 近隣中学校の学力向上担当者へ本校の授業づくり、組織づくりの取組を説明

### エ ICTを活用した広報手段の開発

- 授業研修を所管する学びづくり部会にICT担当者を位置づける
- ICT担当者が中心となり、ICT支援員とオンラインによる広報手段を模索する

## ○生徒・教師の現状

### 生徒の姿

- ・まとめや振り返りを自分で書こうとする生徒が増えた。(授業評価アンケート項目⑥6月比+0.05、授業チェックリスト項目⑥6月比+0.18)
- ・見通しをもって課題に取り組む生徒は増えつつあるが、興味・関心が高まっているとまでは言えない。(授業評価アンケート項目②6月比+0.15、授業チェックリスト②6月比-0.15)
- ・対話活動を通して、自分の考えが広がり深まったと感じている生徒が増えたが、課題が話し合いたい内容になっておらず、対話活動に受け身な姿が見られる。(授業評価アンケート項目④6月比+0.04、授業チェックリスト項目④6月比-0.23)

### 教師の姿

- ・小集団グループを中心に、授業づくりの相談が活発に行われるようになったり、互いの授業を見合い、協議する時間が増えたりした。(本校学校評価項目「各教科等の授業において、研究構想に沿った授業を実践している」前学期比+0.26)
- ・対話活動の捉えに教師間のずれがある(授業チェックリスト項目⑩6月比-0.03)

## ○研究初年度の成果○と課題●、次年度の重点的な取組☆

- 「振り返りをめあてにつなぐ→個の考えをもった上での対話活動→自分でまとめを書く→分かったこと等を振り返る」といった学習過程の確立と小グループを活用した組織体制づくり
- 対話活動の充実に向けた方向性の確認と学力(非認知能力を含む)の課題を分析し、4面からのアプローチを行うことができる4部会体制の推進
- ☆近隣中学校との研修に向けた体制づくり